警鐘レポート7　小児の急性腹症に関連した死亡
事例5
＜事例概要＞ ・幼児期の患児。腹痛、2回嘔吐あり、夜間に外来受診。 ・腹痛を訴えて何度も大きな声で泣き叫び、非胆汁性の嘔吐あり。X線で小腸の拡張や鏡面像、穿孔は認めず、小腸ガス軽度、便貯留を認め、便秘症と診断。浣腸を実施し、硬便あり。痛みを訴える頻度は減っていた。強い腹痛や緑色の嘔吐、ぐったりするなどの症状出現時には再受診するよう家族に説明し、帰宅とした。翌朝、自宅で死亡。 ・死因は、腸捻転による腸閉塞。解剖有、死亡時画像診断（Ai）無。